

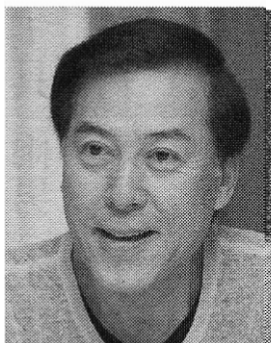
# 新 家の水戸黄門

題字・イラストレーション 市川興一

## 滝田栄 (俳優)

三十年前に八ヶ岳に家を購入。

仏像彫刻と座禅の日々は 僕の理想の生活



1950 (昭和25) 年、千葉県生まれ。中央大学中退。大学1年の時、文学座附属研究所入所。73年、劇団四季に入り、81年退団。テレビ番組「料理パンザイ!」の司会やNHK大河ドラマ「徳川家康」で人気を得る。舞台「レ・ミゼラブル」、映画「不撓不屈」など、その活躍は幅広い。

僕の実家は千葉県の印旛沼に近い、かつての木下街道にあります。水が豊かな穀倉地帯で、うちは代々、関東一帯のお米を利根川から船で江戸城に納める「米庄」という米問屋と水運業を営む家でした。城に参内する時は袴姿に帯刀したそうで、僕は小さい頃、悪戯して母に倉庫に入られると、つづらからその

刀を出して振り回してました(笑)。

でも明治時代に鉄道の普及で没落。それを大正末期に再興したのが、祖父の弟で二十四代目の横綱になった鳳谷五郎という人なんです。

「米庄」は多くの力士を抱え、全国の田舎相撲で闘わせていたという。

たことがなく、「私の身体はポンコツだけど、運転の仕方を知ってるから大丈夫」と嬉々として働いてました。

父は国鉄マンで、東京へ出勤する時に母が仕上げた和服をデパートに納め、帰りには生地を預かってきました。父も明るい人でしたけど、エネルギーの点では母が太陽、父はお月様みたいな、静かに母を見守っている人でした。父には一度も叩かれたことがないけど、母にはよく和裁の鯨尺でビシヤツと。母のお弟子さん達が「また先生の、人工衛星」が来ましたよ」と言うぐらい、僕は母にくっついてましたね。

滝田氏と言えば料理番組の司会でお馴染みだが、実は子供の頃から「料理パンザイ!」だったそう。

小さい頃から料理に興味があつて、高校で山登りに熱中して食事当番なんかやるようになって、NHKの「きょうの料理」のテキストを取り寄せて料理の研究をしました。読書も大好きだったのでフランス文学に惹かれ、アルプスのガイドになれたらとか、と

にかく冒険に憧れてましたね。

昭和四十四年、成田高校を卒業する時、母は……。

「家を出て自活しなさい」と言ったんです。兄達には学費も生活費も出してくれたのに、僕だけ(笑)。母の目には僕は小さい頃から優しくて「いい子」過ぎたんですね。だから「千尋の谷」に突き落とすから、自力で這い上がってきなさい」と。でも僕はホッとしたよ。うちは全員が板の間に正座して「いただきます」と唱和して食事を始めるんですが、箸の上げ下ろしから何から父が礼儀作法に厳しくて、侍の家みたいな。だから芝居の世界に入った時、武家の役ならいつでもできると思ったほどです。中央大学の仏文科に入って、池袋の四畳半アパートで初めて一人暮らしを始めた時は、プライベートってこんな面白いものかと思っちゃったよ(笑)。

この時から僕の長いアルバイト人生が始まるんです。最初のバイト先は次兄の友人が紹介してくれた八丁堀の籠屋さん。当時幼少の浩宮様が提げて「ナルちゃんバッグ」と

まあ、一種の道楽ですね。祖父は田舎相撲では大関まで行ったそうだから、大叔父と一緒に力士達に混じって相撲を取ってたんでしょう。だから十代だった二人は関取になつて家を再建しようと、宮城野部屋の門を叩くんですが、長男である祖父は「跡継ぎなんだから家に帰れ」、大叔父は身体が小さいからと断られ

るんです。でも大叔父は懸命に懇願して入門、努力の末に横綱まで上り詰めた。僕の母は鳳さんが大好きで、「努力次第で日本一にも世界一にも僕を産む時、心臓の悪い母は医者に「この子を産んだら死にますよ」と言われた」

昭和二十五年この家で生まれた滝田氏は、祖母と両親のちに陸上の名コーチとなりマラソンの増田明美やハンマー投げの室伏広治選手を育てた長兄の誕生氏、次兄、姉と共に暮らした。

僕は鳳さんを知りませんが、八歳上の長兄と一緒に暮らしてると。引退後この家に戻った鳳さんは脳梗塞で不自由になった片足のリハビリのため利根川の堤防を杖をついて歩いたそうですが、小さかった長兄が真似して後ろから棒切れをつきながら足をひきずって歩いて、よく鳳さんに叱られたそうです(笑)。

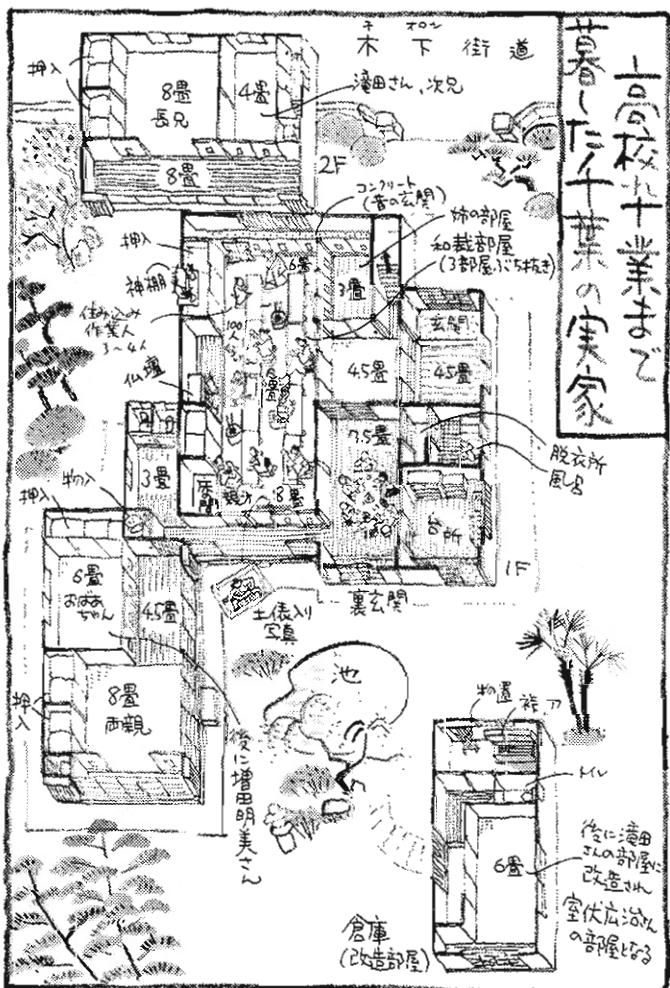
母・政さんは少女時代から修業した腕のいい和裁士。嫁いでも、三越や高島屋など一流百貨店の注文を受け、百人もの弟子を抱えて自宅でも和服を縫っていた。

人気を集めた赤いバスケットを作ったお店。だからとても繁盛していて、僕はそこで配達や荷卸などをさせてもらいながら、中央大学の夜間部に通い始めたんです。

冒険に憧れる硬派な青年が思わぬ道に進むことになったのは、一本の映画がきっかけだった。

大学は殆ど授業ができませんでした。その日も授業がなく、僕はアルバイトが終わって銀座をブラブラ歩いてたら、テアトル銀座に「アラビアのロレンス」の看板が掛かってたんです。ピーター・オトゥールが駱駝に乗って疾駆している有名な場面。何か凄そうだなと思って、入りました。確か大学一年の終わり。数日後、それを田中君とい

う友達に話したら、「君は俳優になるべきだ。ロレンスみたいな役を演れ」。その上、「君は文学座だな」と。僕が「文学座って何?」って聞くと、彼は文学座のことだけでなく入所試験にはこういう問題が出るよとか、作文の試験には「杉村春子さんの芝居に感動して役者をめざした」と書け、面接でもそう言えと。「俺、観たことねえよ」って言うと、「とにかく書け、言

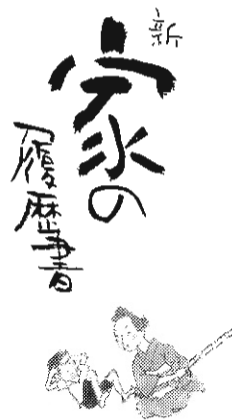


え。だから全く演劇について無知な僕は彼のレクチャーだけで文学座を受けたんです。

昭和四十五年春、十九歳の滝田氏は難関を突破して文学座研究所十期生に。同期に角野卓造氏などがいる。

僕は文学座のある町が大好きになって、高校の講師を始めた次兄と、次兄の山仲間と三人で信濃町(新宿区)で共同生活を始めました。六畳と四畳半に台所とトイレがある古いアパート。二年後にはもつと文学座に近くもつと安い所で一人暮らしを。四畳半一間で台所もトイレも共同の、もう潰れちゃいそうなポロアアパートでした。

文学座の若い人に言われたことがあります、「信濃町でアパートを探した時、不動産屋の主人に怒られました。『滝田君さんを見習いなさい!』とにかく一番安い部屋を探し



てなんだ。って。不動産屋さんの記憶に残るほど僕は安い部屋に住んでたわけ(笑)。もちろんバイトの連続で、籠屋さんは冬場は暇だから、文学座の卒業生が銀座で始めたラーメン屋さんでも働いて。大学は自然にフェイディアウトしちゃいました。

文学座で三年学んだ後、退団、劇団四季へ。

文学座で忘れられないのは研究所の卒業公演です。まだ池袋のポロアアパートにいた頃。ラーメン屋さんで働いて深夜三時頃に帰宅して、公演に行くまで少し寝ようとして部屋でパタッと。ところが目が覚めたら舞台が終わってた(笑)。僕が主役なのに。血の気が引きました。文学座にすっ飛んでって、演出の戌井市郎先生に「すみません! アルバイトして寝過ぎました」。そしたら先生が「しょうがないなあ。気をつけなさい」と。あれは今でも悪夢です。そのぐらいアルバイトで疲労困憊だったので、親しい演出家が四季に移る時、「舞台で飯が食えるぞ、滝田も来い」と言われて移ったんです。で

の仕事なんだという、十九歳で「アラビアのロレンス」を観た時の自分の心。

最愛の母・政さんは平成四年に、父・正氏はその四年後に他界した。

十四年主役を務めた「レ・ミゼラブル」を若い人に譲り、同じ頃、二十年続いた「料理パンザイ!」がスポンサーだった雪印乳業の不祥事で突然打ち切りに。その直後、日本を発ちました。「料理」の終わり方があまりに残酷というか、マスコミのバッシングがショックで。それに「レ・ミゼ」を超える感動的な仕事が今後果たしてあるのかという思いもあり、一度自分を空にしたかったんです。家族も「しばらく心ゆくまで自由にしてください」と言ってくれたので。

NHKで「家康」を演った時、役の心を掴むために家康が少年期を人質として過ごした静岡の臨濟寺に置いていただいた時から、僕は仏教に関心を持つようになりました。それでサンスクリット発祥の地、南インドのアシラム(修行道場)へ。粗末な宿舎や、時には野宿しながら二年間、行者達と共に暮らしました。不便や違和感など全く感じず、心底、僕に合っていました。たぶん芸能界というものに疲れていたんです。だからインドで自分を取り戻せました。人を感動させるのが俳優

てんだ。って。不動産屋さんの記憶に残るほど僕は安い部屋に住んでたわけ(笑)。もちろんバイトの連続で、籠屋さんは冬場は暇だから、文学座の卒業生が銀座で始めたラーメン屋さんでも働いて。大学は自然にフェイディアウトしちゃいました。

僕が芝居の道に入った時、母は一言「自分が本当にやりたい道を選んだのなら努力しなさい」。父は何も言いませんでした。でも後年、僕が八ヶ岳の自宅で舞台「リア王」に向けて役の心を掴むため夜中に風呂場で水を浴び、眠くなるとまた水を浴びて、台詞を一行一行読み込むという姿を、たまたま滞在していた両親が見ていたようなんです。千葉に帰った後、父のメモが残されていました。「歴史に残る芝居をしてください」。それが僕の仕事について父が発した生涯で唯一の言葉です。

現在は事務所を四谷に置き、八ヶ岳が自宅。八ヶ岳では五時に起床、一時間座禅を組む。月に一度、長野の大本山活禅寺で「朝粥の会」を開く。そして増築したアトリエでは今やライブワークとなった俳優彫刻に

も行ったら全然食えなかつた、切符のノルマが大変で。「ジーザス・クライスト・スパースター」のユダ役で渋谷のバルコ劇場に出た時なんか、籠屋さんがバルコに出してのお店を朝からバイトして、夕方になるとお疲れ様で

「料理パンザイ!」が雪印問題で打ち切られた直後、インドへ旅立った

初めて逢ったのは二十一の時です。当時彼女はスターダインサーズ・バレエ団の文字通りスターでしたが、文化庁主催の全国公演をやる時、貴族の役が足りないからと、文学座の研究生に募集が来たんです。舞台を右から左に歩くだけの役なのにすぐギャラがいいからみんなが手を挙げたけど、僕が一番声が大きかったです。で、僕が誘惑された。ウンです、僕が憧れたんです(笑)。

これには離れた席で話を聞いていた夫人がクスクス。氏のマネージャーとなつた今も夫人は毎日、バレエのレッスンを欠かさないとか。

文学座近くの潰れそうなポロアアパートで一緒に住みまし

一専心している。

四十三歳の時、京仏師の久保田唯心氏に出逢ったのがきっかけで俳優彫刻を始めました。そしてその二年前に他界した母の供養のために彫った白衣観音が初めて作った俳優です。インドから帰った時は、アメリカのアフガン侵攻で僕の子供達が留学していた時の友人達が戦争の犠牲になり、僕は怒りと哀しみが収まらず、等身大の不動明王を三年がかりで彫り上げました。お不動様にはご縁があって、母が願を掛けて僕を産んでくれたこともそうだし。僕が二十歳になった時、母が「成田山のお不動様に成人の報告とお前のこれからの人生であるようお参りしたいから、私を成田山に連れていきなさい」と。その頃母は心臓病が悪化して歩けなくなっていたので、僕が背負って成田山の急階段を登りました。

今はこながら童子を彫っています。俳優をやめたわけじゃありませんよ(笑)。本当に自分が必要とされる仕事ならいつでもやらせていただきます。という気持ちです。(取材・構成 斎藤明美)

した。って下向いて裏口からエレベーターで劇場へ。すると楽屋口で女の子達が「キャー」って騒ぐから、今度は顔上げて「おはよう」って(笑)。

妙子夫人に出逢ったのは、そんなアルバイト時代。



そこは家賃が破格に安かった。他の三畳間や四畳半の学生さんが出る度に借りて、結局僕らがアパート三部屋を全部占拠。で、二十五歳の時に結婚しました。

次に越したのが四谷の荒木町(新宿区)で、以前は芸者さんの住いだったみたいで。特な長屋風の平屋で、板塀に格子戸の玄関。六畳、四畳半、トイレ、台所、坪庭には檜風呂がありました。

ここにいる三十一歳の時、

「料理パンザイ!」(テレビ朝日系)の仕事が入って、やつとバイト生活から解放されたんです。その直前には朝四時頃に手配師のいる駅前で肉体系働きの仕事を貰って夕方まで働き、そのあと劇団に行つて、夜は深夜まで銀座のラーメン屋さんと働く毎日でした

から、バイトしないでこの世界で生きていけるのが有難くてねえ。

その昭和五十七年、氏は八ヶ岳に居を構えた。

中学の時、初めて登った山が八ヶ岳で、言わば「初恋の山」なんです。好きな山に住みたいというのと、俳優の貧しさが身に染みていたので東京で家を持つなんて考えてなかったし。幸い八ヶ岳で、アメリカにいる娘の所へ行くから家が空くというお婆さんと知り合って、「お金は後でいいですよ」と家を譲ってくれたんです。それで、さあ頑張つて働こうと思つていた矢先に「料理パンザイ!」を始めどんどん仕事が入るようになって、その土地と平屋を買い取る事ができました。

昭和五十八年のNHK大河「徳川家康」の主役、昭和六十二年から始まった東宝舞台「レ・ミゼラブル」の主役……。母の言葉を守り努力を続けた滝田氏は俳優として見事に花開いた。だが平成十四年、突然、日本を離れてしまう。

風の道しるべ

下重暁子の

トルコの旅I アナトリア

考古学研究所落成式

七月七日から七月十四日までアナトリア考古学研究所(カマン・カレホユック考古学博物館)の落成式に出席するため、トルコに出かけた。考古学者でもあらゆる三層宮様の関つておられる中近東文化センター発掘の成果である、数々の出土品を展示する記念博物館が完成を見たからだ。寛仁親王殿下と長女の彬子女王殿下を迎えての式典は、ちょうど日本、トルコ修好二〇年に当り、JKAM博物館のために補助金で援助させていただいただけに嬉しい。

首都アンカラに到着後フオーマルな服装に着がえて、トルコ建国の父アタチユルクの廟に正式に献花。丘にそびえる巨大な廟のまわりを無数の燕がとび交っていた。トルコの人々は、

この日の真の主人公は、遺跡発掘にたずさわった村の人々。特に障害のある、他の地に仕事に行けない子供たちがいて、いついつ掘り進めた結果だ。博物館は彼等の誇り。完成記念に希望を聞くと、内陸で海を知らない子供達は海を見たいと言ったという。

出土品のすばらしさはもちろんだが、こうした地元の人々に支えられた友情の博物館なのである。

しもじゅうあきこ・作家 財団法人JKAA会長

KEIRIN PR 夢への補助輪。RING! RING! プロジェクト

夢への補助輪。RING! RING! プロジェクト。高齢者が健やかに暮らせる社会を目指して。ringringで検索。http://ringring-keirin.jp